

公立小松大学・公立小松大学協力会共催

第三回 若手教員研究成果報告会

～Salon de K Extended～

お茶・和菓子付



1月30日(金) 15:00~16:15

公立小松大学中央第2キャンパス 401講義室

(石川県小松市日の出町一丁目100番地 ウレシャス小松4階)



講演①

「故郷と異郷のはざまに生きるシリア難民：
隣国ヨルダンの事例から」

公立小松大学国際文化交流学部国際文化交流学科

講師 望月 葵

講演②

「統合失調症の“見えにくい症状”にどう
向き合うか：認知機能改善の試み」

公立小松大学保健医療学部看護学科

助教 相上 律子



お問合せ・申し込み

公立小松大学協力会事務局（公立小松大学総務課内）

〒923-0868 小松市日の出町一丁目100番地（ウレシャス小松4階）

✉ 0761-23-6600

✉ soumu@komatsu-u.ac.jp

参加申込は
右記QRから

申込期限
令和8年1月23日(金)



テーマ ヒトがヒトを受け入れること

今回の2つの講演は、まったく異なる領域に見えるテーマを横断しながら、人が他者を受け入れるとはどういうことか、その根底にある「わかるうとする姿勢」を見つめ直す試みです。多様な生の現場に触れ、ヒト理解を深めるひとときを是非一緒にください。



公立小松大学
学長補佐（研究担当）

高木 祐介

開会あいさつ 公立小松大学副学長（研究担当） 木村 繁男／15：00～15：05

講演① / 15：05～15：35

故郷と異郷のはざまに生きる シリア難民：隣国ヨルダンの事例から

2011年に勃発したシリア内戦をきっかけに、最大時には680万人を超えるシリア難民が世界各地に避難した。2024年12月にアサド政権が崩壊したことで現在難民の急速な帰還が進んでおり、多くの人々は故郷への帰還か異郷での定住かという決断を迫られている。本発表ではシリア隣国のヨルダンでのフィールド調査をもとに、ヨルダンの難民政策の展開と、帰還をめぐるシリアの人びとの生活の中の葛藤の様相について論じる。

公立小松大学国際文化交流学部
国際文化交流学科

講師

望月 葵

Aoi Mochizuki



専門は中東地域研究、難民研究。立命館大学立命館アジア・日本研究機構専門研究員、日本学術振興会特別研究員（PD）を経て、2024年より現職。親の転勤に伴って引っ越しを繰り返した子供時代の経験から移動とアイデンティティの関係に关心を抱き、中東地域における難民の帰属に関する研究を行っている。

講演② / 15：35～16：05

統合失調症の“見えにくい症状”に どう向き合うか：認知機能改善の試み

統合失調症は、幻覚・妄想などの陽性症状、意欲低下などの陰性症状に加え、認知機能障害がみられる疾患である。しかし、認知機能については、今のところ薬物療法だけでは治療効果に限界がある。そこで注目されているのが認知機能改善療法であり、我々はこれをオンラインで自宅から受けられる形へと発展させ、様々な制約を超えて支援を届ける新たな試みを進めている。本発表では、統合失調症がある人を対象としたオンライン認知機能改善療法の研究成果を紹介する。さらに、今後の研究の方向性や展望について述べたい。

公立小松大学保健医療学部
看護学科

助教

相上 律子

Ritsuko Aijo



専門は精神保健看護学。2019年より現職。学生時代の実習で精神に障がいがある人々と関わった経験から、精神障がいと、その障がいのある人々に強い関心を抱くようになった。現在は、統合失調症がある人々の認知機能改善に着目した研究を進めている。また、社会福祉施設での社会貢献活動を通して、日頃から地域で暮らす当事者の方々と関わりながら、研究テーマへの理解を深めている。

閉会あいさつ 公立小松大学協力会 会長 西 正次 / 16：05～16：10

記念撮影 / 16：10～16：15